

## 新入会員紹介

| 入会日           | 支部・氏名   | 施療所名・住所・電話番号・郵便番号  |
|---------------|---|--|
| 令和1年<br>8月1日  |  大曾根<br>やまだ としたか<br><b>山田 敏貴</b> | <b>山田接骨院</b><br>名古屋市東区車道町3丁目21番地の1<br>TEL 052-937-5754<br>〒461-0036        |
| 令和1年<br>8月1日  |  半田<br>きただ のぶひで<br><b>北田 宣秀</b>  | <b>きただ接骨院</b><br>知多郡美浜町奥田石畑384-2<br>TEL 0569-84-7136<br>〒470-3233          |
| 令和1年<br>9月30日 |  大曾根<br>かとう なおき<br><b>加藤 公規</b>  | <b>まる鍼灸接骨院</b><br>名古屋市東区矢田東4-35 ルノンドームA1階<br>TEL 052-721-0717<br>〒461-0044 |
| 令和1年<br>12月5日 |  鶴舞<br>しまだ あつし<br><b>嶋田 篤司</b>   | <b>井上接骨院</b><br>名古屋市昭和区松風町2丁目22番地<br>TEL 052-851-3260<br>〒466-0035         |
| 令和1年<br>12月9日 |  一宮<br>あさの よしひろ<br><b>浅野 芳嘉</b> | <b>萬左堂接骨院</b><br>一宮市西島町2丁目44番地<br>TEL 0586-24-5311<br>〒491-0062            |

※12月9日理事会承認まで



### 訃報 慎んでご冥福をお祈りいたします



令和1年5月12日ご逝去  
いそむら たかし  
**磯村 孝志 先生**  
大曾根支部・享年59



令和1年6月23日ご逝去  
たにうち ひろやす  
**谷内 啓泰 先生**  
半田支部・享年53



令和1年9月6日ご逝去  
いとう しょうじ  
**伊藤 庄治 先生**  
半田支部・享年75

## 令和1年度第1回赤十字ボランティア養成研修会 (8/25)



事業部長

## 石川 益郎

8月25日(土)日本赤十字社愛知県支部において「令和1年度 第1回赤十字ボランティア養成研修会」が開催され受講してまいりました。座学の他、見学や実技があり大変内容の濃いものでありました。

座学では赤十字社の理念「人道」について学ばせていただきました。人道とは生命と健康を守り、人間の尊厳を確保する事。また「奉仕団」という言葉に若干の違和感がありましたが、奉仕＝赤十字は利益を求めない奉仕的救護組織。当たり前の事で納得。「人道」「奉仕」最近考えたこともないワードであり、新鮮さを感じました。

また、日本赤十字社は「公的団体」と理解しておりましたが、実は「会社組織」であり義援金などのご寄付も手数料は一切徴収せず、全額を被災地にお届けなさっているとの事でありました。日本赤十字社の有名な赤い十字マーク、あれは同社でなければ使用してはならないとの講義もありました。

地下にある備蓄倉庫見学もさせていただきました。枕・アイマスク・キャンピングマットなどが梱包された安眠セットや携帯ラジオ・歯ブラシ・ウエットティッシュなどが梱包された緊急セットや毛布等々が整頓保管されておりました。



実技ではよく見かけます日本赤十字社の大きいテントの設営訓練を実施。色々なコツや注意

点を説明頂き、手を挟まぬように細心の注意を払い行いました。これが結構重い・・・

別コマでロープワークもお教え頂きました。巻き結び・自在結び・もやい結びなど、プライベートで行うキャンプにも役立ちそうでありました。



この研修会の最後に同社係長に「実際の災害時の愛整会の動き」などを質問しました。

災害時の基本は日本赤十字社愛知県支部に災害ボランティアセンターを設置するので、そこへ出向いて登録をとる事。しかし疑問がわきます。もし豊橋市など名古屋市より遠方にて発災した場合、名古屋市会員以外は、同社までわざわざ出向いて「登録→指示」その後被災地へ？無駄が多過ぎでは？回答は「同社災害ボランティアセンター運営マニュアル」の改訂中にて、今後は特殊奉仕団長らを招集し、議論をしていくことを確認しました。

あつてはならない災害ではありますが、災害は時と場所を選びません。もしものための整備を引き続き実行してまいります。



## こころのケア研修 レポート (9/15)

事業部長  
石川 益郎

9月15日(日)、事業部長 石川と事業部員 樋渡にて「日本赤十字社 こころのケア研修」を受講してきました。

「異常な出来事に対する正常な反応」…冒頭に講師が放たれたこのワードには電撃が走りました。被災地では大切な方がお亡くなりになられたり、家や大事な物が突然なくなる「異常な出来事」が発生します。そんな時、大きな不安や涙の中で、身体や心は普段とは違う反応になるそうです。しかし、それは「正常な反応」との事。子どもならオネショをしてしまうとか、今以上に幼稚になる事もあるそうです。

少し視点を変えて考えてみました。それらは日々施療させていただく中で、患者様に突然発生した「異常な出来事」の程度を施術者が他覚的

所見に比例させ勝手に判断するのではなく、その患者様自身の「異常な出来事」に対する個々の「正常な反応」を素早く察知し対応する能力が必要な事を痛感しました。そんな時に、暖かい寄り添う言葉や声のトーンや表情を使い分け、思いやりをもって傾聴をさせていただくことも、早期症状回復には大変重要な要素になると考えます。日々の施療にも役立つ事満載な研修会でした。



## 令和元年度愛知県・豊橋市総合防災訓練 (9/1)

事業部長  
石川 益郎

9月1日(日)、豊橋総合スポーツ公園防災啓発会場にて防災訓練を行った。事前総合会議では各団体長が集まり、防災訓練成功に向け様々な説明を受けた。その中で「本防災訓練は131団体3,000名の参加」にて過去最大規模の訓練との報告があった。訓練当日は曇天、海辺に近い会場という事もあり、程よく爽やかな海風があった事が幸いであった。愛整会からは藤川副会長・石川 真 事業部員・事業部長 石川、また豊橋支部より鎌田支部長・中島会員・夏目会員・望月会員が参加し、80名ほどの受講者に下記の項目を説明した。

①身の回りにある物を利用した固定法 …豊橋支部会員を中心に、ペットボトルと食用ラップを利用した簡易固定法を始め、レジ袋を用いた提肘固定法を説明した。また中島会員は新しい方法である、ストッキングを利用した上肢固定法を説明した。

②エコノミークラス症候群予防法について…本会事業部を中心に、エコノミークラス症候群の概要。その予防法の一つである下肢を中心と

した体操を指導させていただいた。

①②共に視察に訪れた大村知事を始め、受講していただいた皆様には大変好評であった。



## 東区防災訓練 (9/1)



大曾根支部  
押谷 昌之

9月1日(日)防災の日、名古屋市立桜丘中学校にて「名古屋市総ぐるみ防災訓練」が行われました。今年の名古屋市の重点区が東区と昭和区ということで東区には森川会長、大口大曾根支部長他、大曾根支部会員3名の計5名で参加いたしました。

前日の雨により、グラウンドが使えず体育館などを使って室内での訓練となりました。

我々は、家庭の物、身の回りの物を使った応急救護をテーマに地域住民、ボランティアメンバー（至学館高校教員1名、生徒3名、慈友学園職員1名）、外国の方々、公職者ほか約50名に説明、実演させていただきました。レジ袋を使った三角巾、ペットボトルとラップを使った手関節固定、傘を使った下肢の固定等を実演し好評を得ました。また、シーツを使って担架を作り、実際に体感していただきました。

早期の応急処置の重要性、地域の連携の必要性を説明し共感していただき、大変有意義な時間となったと思います。今後、災害に対し、柔道整復師は何を求められ、何ができるかについて改めて考えさせられた訓練でした。



## 昭和区防災訓練 (9/1)



事業部員  
樋渡 啓祐

9月1日(日)、名古屋市昭和区の川名公園にて、消防・警察・自衛隊・医療を組み合わせた大規模な昭和区総合防災訓練がおこなわれ、小林副会長・山口理事・吉田会員・松浦会員・樋渡の5人で活動してきました。

「災害時に身の回りにあるもので応急処置をしましょう」と、やさしくわかりやすく説明しながら、レジ袋を使っての三角巾固定の代用やペットボトルを使っての副木固定の応用などを、200名近くの方々に体験していただき大変ご好評をいただきました。

「南海トラフ地震来たらどうするか？もち

ろん来ないのが一番良いのだが、来てから対応しては遅いのです」今回の昭和区総合防災訓練の代表の方のご挨拶の中にあつた一言でした。

自分も歳を重ね、阪神淡路大震災や東海豪雨、東日本大震災をみてきました。その度に救助活動や避難生活など、元どおりの生活がおくれるようになるには大変な力が必要になります。や



はり災害が起きてからでは遅いのだと改めて思いました。

この経験を活かして今後も努力して参りたいと思います。

## 武豊町防災訓練 (10/27)

事業部員  
樋渡 啓祐

10月27日(日)、武豊町の緑丘小学校にて、武豊町役場と消防署、自治区の方々による防災訓練がおこなわれました。

石川 益郎事業部長・松田 吉弘半田支部長・石川 真会員・森 正仁会員・桑子 和也会員・樋渡 啓祐の6名で活動してきました。

「エコノミー症候群を予防しましょう」、「災害時に身の回りにあるもので応急処置をしましょう」と、日ごろの技術や経験を活かして各会員が、やさしくわかりやすく説明しながら一緒に体操をして、レジ袋を使っての三角巾固定の代用の仕方やペットボトルを使っての副木固定の応用などを、100名近くの方々に体験していただき大変ご好評をいただきました。

連続の台風や大雨など、地震や津波だけではない災害大国の日本。大型の台風は今後も十分に考えられます。当たり前のように毎日を過ご

しておりますが、災害で避難生活や復旧作業は大変な力が必要になります。そういった中でも武豊町の皆様は防災の意識が強く、お祭りを軸とした地域の顔なじみが多いため、連携も素晴らしかったです。今回も良い経験をさせていただきました。



## 守山区総合防災訓練 (9/1)



大曾根支部広報担当

横井 達典

9月1日(日)午前中、市立大森小学校にて、令和元年度なごや市民総ぐるみ防災訓練守山区総合防災訓練が開催された。

井上 哲三、加藤 彰一、横井 達典の大曾根支部3会員が、5年2組と6年2組の各教室に赴き、学童と教師延べ63名に対して、雑誌を利用した手首・前腕部骨折の応急時の固定法、レジ袋を使った三角巾の作り方、シーツを使った応急担架の使い方などについて講習を行った。6年生

の講習の最後に「用意してきたバンダナを使っての三角巾固定の説明は？」と質問があった。講習の内容に行き違いがあった上に、そのサイズが小さく肘提はできず、その場で思いついた活用法を紹介するに留まった。しっかりとした事前連絡や確認の必要性があると思われた。



## 天白区総合防災訓練 (9/1)



鶴舞支部広報担当

## 山本 篤

9月1日(日)午前8時30分から11時まで、天白区山根小学校にて令和1年度名古屋市天白区総合防災訓練が開催された。天白警察、天白消防署、天白消防団連合会、山根学区(災害救助地区本部・自主防災会・避難所リーダー・民生委員児童委員協議会)天白医師会など28の機関や団体が参加した。本会鶴舞支部からは丸谷、菅沼、山本の3名が参加した。

午前8時に山根小学校に集合。昨年と同じく天候が心配されたが雨にならず胸をなでおろした。

今回の想定としては「南海トラフ巨大地震が発生し、市内全域に著しい被害が発生した」との状況に乗っ取り訓練を行った。訓練前から山根学区近隣住民の方々は本訓練に対しても熱心に取り組んでいる事を聞いていた。

8時45分から10時20分まで4組の児童2組の地域住民231人に応急処置法の実践指導をした。昨年の約2倍の参加者で材料を心配したが、何とか間に合わせることができた。

- ①レジ袋を利用した三角巾の代用
- ②シーツを利用した簡易搬送(担架の代用)
- ③ペットボトル、雑誌、ネクタイを利用した

各部位の固定。レジ袋は見学者に渡し其々実践してもらった。

その後10時50分まで消防会、医師会、地域住民による総合救助訓練が行われた。

訓練終了後10時50分から閉会式があり渡辺天白区長による講評があり11時解散となった。



## 岡崎市防災訓練 (9/1)



岡崎支部

## 秋吉 良

岡崎支部では9月1日(日)に岡崎市立竜美丘小学校にて、朝7時30分から9時まで防災訓練がありました。黒瀬 弘幸支部長、大竹 康範会員、

中村 政幸会員、山崎 達也会員、菅沼 秀生会員、野村 将之会員、黄原 永治会員、市川 幹也会員に私を含め9名で講師を務めました。

シーネを用いた上肢及び下肢外傷の固定法と、段ボールを用いた下肢の簡易固定法を紹介。その後、三角巾の代用としてのレジ袋とラップを使った上肢固定法を実技指導しました。レジ袋を参加者の方々に配布し100名以上の方に体験して頂きました。短い時間でしたが真剣に取り組むことができました。



## 尾張旭市防災訓練 (10/27)



大曾根支部  
中島 竜児

10月27日(日)尾張旭市立瑞鳳小学校にて、「令和元年度尾張旭市防災訓練」が行われました。今回の尾張旭市防災訓練には、瀬戸・尾張旭市地区から3名そして、大口大曾根支部長も駆けつけて頂き、大曾根支部会員4名で参加いたしました。前日の雨により、心配されたグラウンドも当日の秋晴れで使用でき、グラウンド・体育館両方での訓練となりました。今回の訓練は約600名、40を超える各種団体の参加で盛大に行われました。

我々のブースでは、約40名の来場者にエコノミークラス症候群についての知識と対処法を指導させていただき、それを軸に柔道整復師ならではの災害時の色々な対処法も実演・説明をして柔道整復師の有用性をアピールさせていただきました。

家庭の物、身の回りの物を使った応急処置としてラップを使った止血や固定、雑誌などを用いた固定術、レジ袋を使った三角巾、中でも包帯固定体験が好評で、実際に包帯を巻かれた人の口々から「これはいい!」との評価もいただきました。今後、災害に対し、柔道整復師は何を求められ、何ができるかについて改めて考えさせられた訓練でした。



## 半田市防災訓練 (11/17)



半田支部  
木之本 達明

11月17日(日)、第39回半田市総合防災訓練が半田中学校において行われた。

半田支部から3名の会員が午前8時半から参加し、エコノミークラス症候群予防体操に伴い、ストレッチ運動や筋肉トレーニングなどを、グループ分けされた約60名の市民の方々に対して実践、説明、体験していただいた。

やはり多くの方が「エコノミークラス症候群」の言葉は聞いたことはあっても、実際のところどういったことになるのかは知らず、皆さんとも関心を持って熱心に参加していただいた。

終わってからは、これも訓練の一つとして昼食は、自衛隊の炊き出しによるカレーライスをいただき無事終了した。



## 知多市防災訓練 (11/17)



半田支部  
村田 衛民

11月17日(日)旭南小学校にて開催され、半田支部から4人の会員が参加して午前8時半から11時半まで活動した。

旭南小学校体育館で各会員が熱心にエコノミークラス症候群に対するストレッチ体操、有酸素運動、筋肉トレーニングを解説と共に実演を行った。

旭南地区からの参加者も多く、グループごとに約60人の市民が楽しみながら体操に参加し、「小さなスペースでできる」と感心され、喜んでいただき、好評の内に全ての工程が終了した。





## 東海市防災訓練 (11/23)



半田支部  
宮永 泰明

11月23日(土)、東海市明倫小学校にて令和最初の東海市民総合防災訓練が行われた。東海市会員11名が午前11時30分に集合し、明倫小学校へ車を乗り合わせ向かった。

12時30分より、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、柔道整復師が合同で打ち合わせを行い、役割分担の説明があった。

訓練では、傷病者を担架や手を貸し重傷者、軽傷者のブースへ運び医師の指示の元、医療従事者が応急処置を行い、緊急に治療が必要と判断された傷病者は、自衛隊の車両で病院へ移送されるところまでの流れであった。軽度と判断した方が重傷だったり、一つのブースに偏りが

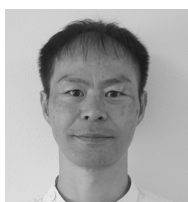
ちになったり、また担架をベッド代わりにしたために他の傷病者を運ぶ担架が足りなくなった等、様々な失敗例があったが、それが課題となり本番に生かせるものと思われた。

近隣の市民も参加し、消火器の使用方法やバケツリレー消火体験や身近なものを使い担架や救護に充てるものを作成する体験があり、一人ひとりの力が集まれば大きな力となることを学べた。

市長をはじめ、さまざまな職種の方々が集まり、実際の災害での役割分担等の指示系統がわかり大変勉強になる一日だった。



## 大府市防災訓練 (11/24)



半田支部  
西松 信明

11月24日(日)午前10時より大府市共和西小学校グラウンドにて「令和元年度大府市地域総ぐるみ防災訓練」が開催され、石川 真、岩切 誠、春日井 弘治、西松 信明の半田支部会員4名で参加した。

「大地震及びこれに起因する水害」を想定し、今回も訓練車両に乗り込み車両入場し、本部前で停車し、災害対策本部長(大府市長)に柔道整復師支援活動訓練の報告をしてから訓練を開始する、というスタイルで始まり、我々は、避難所生活支援活動としてエコノミークラス症候群の予防体操の指導にあたり、実演しながら市

民と一緒に進んだ。

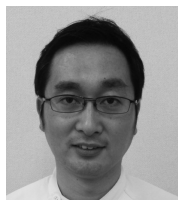
今回の大府市の防災訓練への参加機関は36機関あり、地域の方の一般参加も300名以上の市民が参加されていたそうで、とても賑やかな防災訓練となった。

平成29年度に続き今回2回目の参加であったが、78名もの大変多くの方が我々のブースに来てくださり、休む間もなく指導し体験していただいた。以前にも増して地域住民の防災意識が高くなって来ているよう感じられた。





## 岡崎市乙川リバーフロント地区 欣求浄土の願い



岡崎支部広報担当  
菅沼 秀生

11月2日(土)に、若き徳川家康公の騎馬像が名鉄東岡崎駅の駅頭に設置されました。高さ9.5mで、日本一の高さを誇り、全国の戦国武将像にも引けをとらない立派さです。実際に目の前にすると、非常に力強くその異様さに圧倒されます。一般的な家康像といえは恰幅が良く老齢な人物像をイメージしますが、あえて若き家康像を建立した理由は、岡崎市が家康生誕の地であり、青年期に若きリーダーとして活躍したことがひとつ考えられるでしょう。

銅像の台座前面に「徳川家康」、後面には徳川の旗印に使われた「厭離穢土欣求浄土」と彫られています。厭離穢土欣求浄土とは「苦悩の多い穢れたこの世(戦乱の世)を厭い離れたいと願い、心から欣んで平和な極楽浄土をこい願う」という意味です。その信念は現在の世界平和の願いに繋がります。

また、この題字を書いたのは、徳川宗家第18代当主徳川恒孝氏で、銅像制作者は彫刻家で現名古屋芸術大学名誉教授の神戸峰男氏で、4年の歳月をかけて作られました。

現在、内田岡崎市長が東岡崎駅を含む乙川周辺の「乙川リバーフロント地区」の整備事業を進めており、銅像シンボルの作成はそのひとつで

す。

東岡崎駅から乙川河川敷へ向かう北東街区をペデストリアンデッキが結んだ先に、複合商業施設「オトリバーサイドテラス」が同日グランドオープンしました。ホテルグランドイン東岡崎を中心に、飲食店、保育所、24時間営業のスポーツクラブなど様々な店舗が入店しています。オトリバーとは、ジャズの街岡崎の「音」と乙川の「オト」を掛けた造語です。川辺のある施設なので風抜けが心地良く、店舗からの景観が美しいです。岡崎城周辺から乙川・伊賀河川河川敷は桜で有名な観光地で、春には満開な桜で見事な景色を観られることでしょう。

同7月には籠田公園がリニューアルオープンしており、令和2年3月には、乙川に東岡崎駅と籠田公園を結ぶ人道橋「桜城橋」が完成するなど、次々とまちが新しく変わりつつあります。



## 医接連携



熱田支部  
太田 昌夫

今春、唐突と言う言葉がぴったりと言う感じで一通の封書が届いた。ご存じな方も多いと思うが、中川区の某病院整形外科医からの勉強会の案内であった。

まずは、「なぜうちに？」との思いが頭をよぎった。最近の風潮はほねつぎに対してとても厳しいものがある。まともに相手をしてくれる医師もほとんどいない。そんな中の出来事だけにわかには信じられない思いであった。

しかし、お邪魔をしてみるとすべてが払拭された。その医師は「とにかく若い」が、理想をもって行動しておられるのがすぐに伝わってきた。自らを鍛えるために国内外の数々の病院で研修・実務経験を重ねられた、膝・肩関節のスペシャリストだ。信じられないようなことを関節鏡視下でやってしまう。また、激務の中で論文を発表されるなど精力的に活動をされている。

これまで腱板損傷、変形性膝関節症、肩関節脱臼と三回にわたって講義をして下さった。医師に加え関係先の理学療法士からもお話を頂け、医師からは最新の医学情報と観血療法について、理学療法士からは我々の施術とは別目線の大変参考となる情報が頂ける。勉強不足の当方にとってはとてもありがたい場だ。

「気軽に患者さんを送って下さい」とのお言葉に甘えこれまで5名の患者さんを診ていただいたが、診察は『診察』と言うよりも『精査』と言う言葉がふさわしい。また何より患者ファーストで、初診時に「今日で終わりたいよねー」などと言いながら無理やりMRI予約を割り込ませて下さったりしてくれる。これには患者さんも感激していた。

我々ほねつぎへも真摯に接して下さい、丁重な情報提供書と共にMRI画像などを焼いたDVDを無償且つ迅速に提供して下さい。

5月に勉強会が始まり半年余り、今は自らを戒め医師・病院側の信頼をなくさぬよう研鑽を

積みねばならないと思っている。

## ID (知的障害者) 柔道安全指導 研究会講習会に参加して



笠寺支部  
竹上 勝

11月9日(土)・10日(日)全日本柔道連盟主催の講習会に参加した。全柔連から野瀬副会長や事務局長、愛知県柔道連盟会長、副会長も参加しておりID柔道の今後の重要性を強く感じた。

9日は講習があり全柔連のID柔道のこれまでの取り組みや今後の発展について柔道For Allの理念のもと知的障害者の社会参加を広める活力ある社会作り、柔道に関わる人たちがもたらす喜びを共に享受できるよう安全に柔道に親しめる支援体制を整え、試合等の交流の場を設けるなどの説明があった。その後、「障害者スポーツにおける感覚機能の重要性について」加藤一幸先生より講演していただき知的障害者感覚機能の違いや発達期の問題点等の説明を受けた。

10日は柔道着に着替えて実技を行った。審判規定や安全配慮について頸部に負荷が掛からないように奥襟絞技の禁止、袈裟固等頸部を巻き付けることの禁止、頭部外傷予防のため巻込技禁止、膝付技禁止(投げた終わった後しっかりと立位を維持できること)等、選手の怪我防止の実践に基づく説明があった。また、実際に投技の指導方法として柔道の基本である「崩し」「体捌き」の指導を受け、改めて講道館柔道の基本練習方法の大切さを認識した。

最後はID柔道選手と合同練習会を行った。趣向を凝らして遊び感覚の準備体操はみんなが楽しみながら練習ができた。乱取りでは知的障害も様々で、しっかりと柔道ができる人から安全に配慮しなければいけない人まで様々な選手がいる。今回の講習会に参加して知的障害者柔道の発展には、指導者の育成が急務で柔道指導者が知的障害を理解することが今後の大きな課題になりそうだ。

## 2020東京五輪大成功と 好記録への確信



半田支部  
西川 裕育

平成31年正月、2020東京五輪まで約一年と半年、私はテレビ放送で実業団対抗駅伝、箱根駅伝を走る選手の姿にメンタルの強さを感じ、大河ドラマ、いだてん～東京オリンピック噺、を見て柔道と五輪の関連に驚きと感銘を受け、自分がフルマラソンを初完走した時の事を思い出していました。

公益社団法人となった2012年の春に、名古屋シティーマラソンハーフを初完走した私は、一気にフルを完走しようと考え、筋トレで5時間連続で片脚交互のスクワットや、気温の下がる夜にラントレをして、少し走り込み不足でしたが、2012年10月、台風が接近する中、静岡県島田市の、しまだ大井川マラソン大会に出たのです。ホノルルマラソンと同じ制限時間7時間で、メタボ予防、健康に良いといわれるロングスローディスタンスのゆったりした大会ですが、申込み後静岡県の柔整会がランナーをサポートしている事を知り、初めてのチャレンジだが、公益社団法人愛知県の柔整師として、必ず初完走する、を目標でスタートしました。スタートからマイペースで島田市内、歴史感じる江戸時代の宿場町の街並み、大井川沿いのサイクリング道路へ、心地良い風の中18キロまで楽に走れ

て、初完走とタイムにも期待を持ち、島田市民の給水、応援のサポートで、地元愛知県のようにリラックスした状況の中未体験の出来事、脚が止まる、が私に起こりました。やはり走り込み不足か？完走が目標、なのでかなりペースを落として走り、給水所の給食でエネルギー補給をして元気になるも、ペースが上げられない、さらに靴擦れの痛みに、雨がふり出し体や靴が重くなる過酷な状況でしたが、初完走の目標を強く思いながら走りきり、なんとか制限時間内にフルマラソン42.195キロを、初チャレンジで初完走でき、目標を達成したのです。

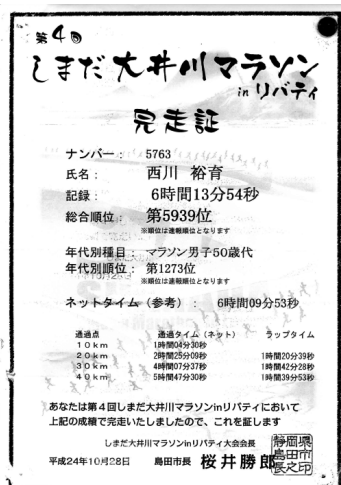
この時の喜びと達成感は今和になった今でも覚えていて、自分のスポーツ記録で感動した事は、かなり久しぶりでした、予想外の脚が止まる苦しいマラソンでしたが、トレーニング量の自信、目標達成への思い、大会関係者の声援、サポートが、完走できた要因だと考えました。そして同じ要因を正月の駅伝のテレビ放送から感じられ、「おもてなし」の2020東京五輪の大成功と、柔道や、各種目の日本代表選手の、凄く強いメンタル、過酷なトレーニング量からの自信、日本国民の応援と大会関係者のサポート等の相乗効果で、ベスト以上の力を出し、クールウェアで暑さに勝ち、好結果が出る事を、今から確信しています。

## おりもの感謝祭一宮七夕まつり



一宮支部広報担当  
櫻木 哲也

仙台、平塚の七夕まつりと日本三大七夕まつり(安城の七夕まつりを加えて日本四大ともいわれている)と並び称される「おりもの感謝祭一宮七夕まつり」が戦争の傷が癒え始めた昭和31年より開催された。歴史と伝統を重んじる一宮市民が守り神として崇敬されている「真清田神社」の祭神「天火明命」の母神「あめのほあかりのみこと」の母神「よろずはたとよあきつひめのみこと」「萬幡豊秋津師比売命」は太古から織物の神様として知られており、その御加護に感謝し更なる繊維産業の振興と一宮の発展を願って織物に縁



の深い牽牛、織姫に因んで始まった。そして永年の歴史を積み重ね、令和元年第64回を迎えることとなった。

毎年7月の最終日曜日をフィナーレとする木曜日から4日間、およそ120万人の人出を記録するが、生憎今年は台風6号接近の影響で27日(土)は屋外での行事の多くは中止を余儀なくされるものの、本町商店街のアーケード内や尾張一宮駅ビルではイベントが行われ悪条件の中、それでも100万人の人手があった。メイン会場の本町商店街では色鮮やかな吹き流し1000本と飾り付けに彩られ、各部門に分かれ市からの表彰の対象になっている。

4日間、多数の参加者によりコンテスト、パレードが催しされるが、最も盛り上がるのが最終日、過去には「ダンシングヒーロー」で有名な女優で歌手の「荻野目洋子」さんが登場した事もあるサプライズイベントに今年は俳優の「館ひろし」さんのトークショーが行われ多くの市民の関心を集めた。

そして8年前より今や全国のコスプレイヤーが大注目している「コスプレパレード」が行われ、今年も450人を超える参加者が自慢の自作の衣装に身を包みパレードする様は圧巻であった。完成度の高いコスプレイヤーを発見した時は、全く興味がなかったのに「来年は自分も」と火が付くという中毒性を持ち蔓延していくというから不思議である。

来年は「東京オリンピック・パラリンピック」の開幕を控えており、重複を避ける為1週間早い令和2年7月16日(木)から19日(日)に開催される。

尾張一宮駅の改札を出るとそこが会場であり、来場するにはアクセスしやすくなっている。機会があれば是非、足を運んでいただきたい。



## 秋の一吟研修会と相生コミセンまつり



鶴舞支部

丸谷 康男

今年の秋の一吟研修会は日程の都合で9月22日(日)にいつもの東区東桜会館で、午前10時30分開演でした。次に私の独吟した漢詩を紹介します。

偶成 朱熹

少年易老学難成 一寸光陰不可輕

未覚池塘春草夢 階前悟葉已秋声

偶成 朱熹

少年老い易く学成難し

一寸の光陰軽んず可からず

未だ覚めず池の塘春草の夢

階前の悟葉已に秋声

次にこの詩の大意を述べます。

少年は老い易く、学問なかなか成就し難い。少しの時間も無駄に過ごしてはならない。池の塘に生じた春草の夢を、いつまでも見続けていると、あっという間に庭先の悟葉に、秋の訪れを開くことになるのだ。

次に相生コミュニティーセンターまつりが11月10日(日)午前9時45分～午後5時まで開催されました。我々の詩吟教室の出番は午後12時30分からでした。女性の合吟3人で、今回は時間の関係で独吟はありませんでした。来賓は天白区長、県議員、市議員の皆様でした。

次に発声練習(ボイストレーニング)について紹介します。参考にして下さい。

① 息を吐きながら、首を前に倒す→息を吸いながら戻す。

② 息を吐きながら、首を横に倒す→息を吸いながら戻す。

③ 息を吐きながら、首を右に回転→正面で息を吸う。

④ 息を吐きながら、首を左に回転→正面で息を吸う。

⑤ 両肩を、ぐるぐる回す。(前回し後ろ回し)

⑥ 両肩・両腕は両横に置き、少し胸を張る。

尚①から⑥までの動作を数回行います。

声を出すときには、唇・咽喉・舌・舌根等発声器官周囲以外にも首や肩周りそして、腹式呼吸など、体全体を使います。民謡・長唄などの邦楽や西洋音楽などでも実施されているそうです。

## 令和元年全日本柔道形競技大会

半田支部

大元 美久

6月30日(日)に第20回東海形競技大会が三重県名張市名張武道交流館にて開催され、「固の形」の部門において私たち木之本・大元ペアが優勝させていただき、10月27日(日)に東京講道館での全日本柔道形競技大会への東海地区代表としての出場を決めた。

固の形のコンビを組んで6年目にして念願の全国大会。一昨年から2年連続東海大会2位で悔しい思いをしてきたので感無量だった。ただ喜んでばかりもいられない事態が我々に立ち回った。6月から7月に開催される東海大会で敗退してしまい精神的にも落ち込み、季節的にも愛知の暑い夏に入ってしまうことから稽古をしようというモチベーションが失せ、固の形オフシーズン状態となるのが恒例であった。しかも今回はその気温の高い時期に他の形よりも受け取り両者の密着度の高い演武が多い固の形の稽古をしなければならない状態。当然その結果、全国大会当日には木之本・大元共に体形がシェ

イプアップされた。スリムになったこと自体は良いのだが、全国大会のために新調していた帯がサイズオーバーになってしまい使用できないと言うオチになってしまった。

大会では開会式に三笠宮 信子様が来賓として列席され、ご祝辞をいただいた。日常お会いできない方を目の当たりにして自分の緊張度がいつもに増して上がったことを感じた。

形競技会の固の形部門としてのエントリー数は全日本柔道連盟推薦枠(全日本強化選手)3組、全国枠(地区大会を経ず出場権を得る大会で基準点を満たした者が出場)3組、地区枠(県予選地区予選を経て10地区代表として出場)10組の計16組であった。我々東海代表組は6番目の演武でした。特に大きな失敗もなく演武ができたが、全国に出る方たちのレベルの高さには及ばず16組中10位だった。しかし、木之本先生とペアを組んで6年。着実に少しずつではあるが上達してきていると思っている。今後も焦らずゆっくりじっくり稽古をして、出来ればまた全国大会講道館の大舞台で演武ができるように頑張りたいと思う。



大元 美久・木之本 達明